

城山エコミュージアム通信

令和8年（2026）1月15日 第49号

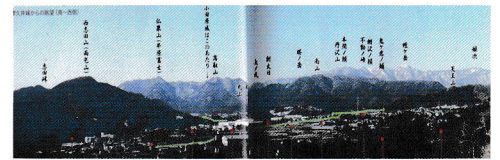
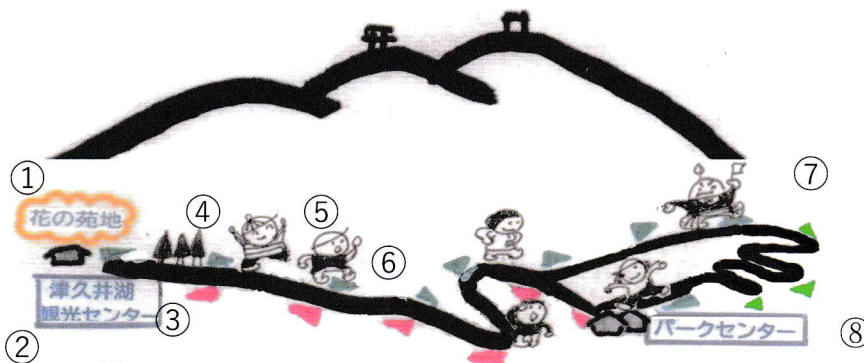
エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方のもとに、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。



テーマ：城山を歩こう！ ～津久井湖城山公園花の苑地からパークセンターへ～

予定した「城山エコミュージアムツアー」が雨で中止になりましたので、誌上で概要を紹介します

古文書に初めて“津久井の城”と書かれ歴史に登場した城山は、書かれた年からちょうど500年目となることから今回のツアーを企画しました。山頂には行きませんが、城山の自然と歴史に触れる良い機会となるでしょう。



<展望広場>



<お屋敷跡>

①9時に花の苑地津久井湖観光センターを出発



②津久井街道を跨ぐ陸橋近くにある大木のメタセコイア。葉や実の付き方を目の前で見ることができます。



③とばぼり橋は山城らしい堅堀跡があちこちにあるそのひとつに架かっています。

⑦展望広場で丹沢方面の山々を目の前に見ながら山名が書かれた掲示写真で確認。城主の居館があったとされる「お屋敷跡」を眺めます。

④城山は落城後、徳川幕府直轄の「御林（おはやし）」として厳重に管理されました。幕末の頃、この地を治めた代官「江川太郎左衛門英龍」によって植林されたヒノキ林「江川ヒノキ」が今も残っています。



<江川ヒノキ林>



<アサギマダラとキジョラン>

⑤最近盗掘が多く、少なくなっているキョウチクトウ科の「キジョラン（鬼女蘭）」の観察。キジョランの葉は蝶の中でも長距離の渡りをする事で有名なアサギマダラの食草です。



⑥津久井根小屋の功雲寺の前身の耕雲庵跡地を見学

<耕雲庵跡地>

（高橋 告郎）



今回のトピック ■特集「城山を歩こう！」 ■活動報告「小松薬師堂・おこもり」
■しろやまミニ図鑑「キツネ（ホンダギツネ）」 ■小さな自然発見 ■城山検定
■インフォメーション「つどいのお知らせ」

～小松薬師堂～

小松自治会館の隣に小松薬師堂があります。建立の起源は定かではありませんが、「寅薬師」または「押薬師（おしやくし）」と言われ、特に目の病気にご利益があるとして崇められてきました。「寅薬師」と言われるのは寅年に半月間ご開帳され、60年ごとの庚寅の年には30日間の本開帳がなされてご本尊を拝観できたことによります。ご本尊の周りには眷属（従者）である十二神将と日光・月光菩薩がいらっしゃいます。また、毎年9月12日には宝泉寺の住職が法要を行い、小松の女性たちがお堂の中でお念仏を唱える「おこもり」が行われています。

「押薬師」の由来は、中秋の名月（旧暦の8月15日夜）の後の二十三夜の“闇の宵”にふんどし姿の男性が水をかけられながら押し合い、それから平服姿の男女が面白おかしく押し合う“暗闇祭り”が行われたそうです。近隣からも人々が集まってたいへん賑わったと伝えられています。（＊地元に残る記録による）



<小松薬師堂>



<薬師観音>

= 「おこもり」に参加しました。 =

昨年の9月12日（金）に行われた小松薬師堂の「おこもり」に城山エコミュージアム委員会のメンバー3人が参加しました。

宝泉寺の住職に続いて小松の地元の方5名と私たちがお堂の中に入り、住職による法要の後、いよいよ真言を唱えます。長い数珠を広げて一人分の長さを持ち真言を1回唱えたら玉を左から右へ一つ送ります。

♪「なむ やくし によらいさま」	3 4 回
「おんころころ せんだりまとうぎ そわか」	3 3 回
「なむ やくし るりこう によらいさま」	3 3 回

合計100回ですが玉一つが一万として百万遍唱えたことになるそうです。最後にお供え物を参加した女性たちで分けて無事におこもりが終了しました。



<薬師堂の中の様子>

この薬師堂は「明治15年に再建」という記録が残っていることによりそれ以前からこの地にあって信仰されてきたのですが、諸事情によりご本尊、十二神将などを宝泉寺に移すことになったそうです。詳細はまだ決まっていないとのことですが、地域の方々が大切に続けてこられた薬師堂での「おこもり」は残念ながら令和7年で最後となります。その場に共にいられたことに深い感慨がありました。



<数珠>

（金子 直美）

キツネ（ホンドギツネ） ネコ目（食肉目）イヌ科

「昔は、キツネがたくさんいたよ」という話を聞いてから、いつかキツネに会いたいと思っていました。昨春、ご近所の方に、キツネの親子がいることを教えていただいたから、数カ月後にやっと出会うことができました。



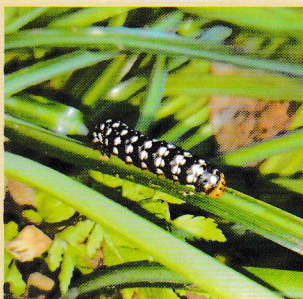
キツネは、早朝と夕方に活動して用心深い性質です。ネズミやノウサギ、モグラなどの小動物や昆虫、ミミズを主に食べます。かつては、飼っている鶏の卵を食べたり作物を荒らしたりして厄介者のキツネとされていましたが、今では滅多に会うことができなくなってしまった存在です。里山の生き物であるキツネが、いつまでも過ごしやすい環境であることを願います。

（文・写真 長久保 梓）

参考文献：小学館の図鑑NEO〔新刊〕動物

小さな自然発見

<ハマオモトヨトウ>



（2025年10月）

ハマオモトやヒガンバナを食べるヤガの仲間。城山公園湖畔展望園路沿いのヒガンバナの葉にたくさん発見！



（2025年12月）

<頭を出した鶴山（ひよどりやま）>

津久井湖の貯水量が減ると水没した鶴山が頭を出します。城山に向かって右手下には荒川橋がありました。

城山検定

問題

野生動物が私たちの目の前に姿を晒すことはめったにありません。とはいえここ城山の里山には、多くの動物が棲息し活動しています。たとえば、リス、ウサギ、タヌキ、テン、ネズミ、キツネ、アナグマ、シカ、ムササビ、イノシシ、サル、ハクビシンなど。最近ハクビシンの目撃情報もあります。

多くの動物は、早朝3時頃から10時頃までと、夕方3時頃から6時頃までが活動時間です。見かけたとしてもホンの一瞬ですし、相手は見られないようには行動していますから、眼に入らないのは当然でしょう。それでも動物の食事の痕や縄張りを示したツメの痕、横になって休んだ痕、足跡などを見つけることができます。

たとえば山を歩いている時、一箇所に山のように積みかさなっている動物のフンを見ることができます。これはいったいだれの仕業でしょう？



⇒解答は4ページ

1. タヌキ 2. テン 3. ウサギ 4. キツネ



地域がわかる・学ぶ・楽しむ

城山エコミュージアムのつどい

“まちまるごと博物館” 城山エコミュージアム委員会の活動紹介と、皆様と一緒に学び楽しむ「講演」を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時：令和8年2月14日（土）13:30～16:00 （受付13:00～）

会場：城山公民館・大会議室（緑区久保沢2-26-1）

内容：①城山エコミュージアム委員会の活動紹介

②事例紹介：「仙洞寺山について」・「我が家の庭の野草について」

③講演「津久井城～500周年を迎えた、魅力あふれる地域の宝」

講師（公財）神奈川県公園協会

県立津久井湖城山公園 野口 浩史 園長

定員：40名（申込先着順）

申込開始：令和8年1月15日（木）午前9時～

申込・問い合わせ：城山公民館 TEL：042-783-8194

※月曜および祝日の翌日を除いた午前9時～午後5時

※参加費無料

主催：城山公民館 主管：城山エコミュージアム委員会



上中沢方面から見た城山
（宝が峰・津久井城址）



城山検定

答え：1. タヌキ（ホンドタヌキ）

タヌキは特定の場所に糞を集める「ためふん」という習性があります。この行動は、仲間に自分の存在（縄張りの主張）やエサ場の情報を伝えるためのマーキング行為とされています。また、糞の匂いを通じてタヌキ同士が健康状態や性別、発情期のサインを伝え合うコミュニケーション手段でもあります。

タヌキに似たアナグマ（ニホンアナグマ）もためふんをしますが、タヌキのものに比べて小規模です。

ハイキングの途中でさまざまな動物の痕跡として、フン、足跡、食事をした痕、木の幹に付けた爪痕や牙の痕などを見つけることができれば、山歩きがより豊かなものになると思います。
（多羽田 啓子）

これから見つけやすい食痕の例



松ぼっくりをリス
が食べた痕
（森のエビフライ）



クルミをネズ
ミが食べた痕

◆城山エコミュージアム委員会では常時委員を募集しています。毎月第1水曜日の定例会の見学ができます。公民館へお声がけください。



編集後記

去年は暑くて長～い夏が続き、自然災害やクマ騒動などもあり自然界が大きく変化していることをより強く感じました。

今年の干支は「丙午（ひのえうま）」、明るく力強い年となることを願いたい。

（塩谷 弘道）

企画/作成：

相模原市立城山公民館 城山エコミュージアム委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

城山公民館ホームページQRコード



ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索